

# 裏路地探険

円山川の中洲上に発展した和田山  
旧街道には虫籠窓、うだつのあがった家が残る  
宿場町として栄えた趣のある路地を歩く

## 和田山駅前、旧街道を歩く／朝来市

元々は、「環田山」という字を書いたといわれる朝来市和田山町和田山地区。

なぜ「環」なのか。その答えは、イラストが示すように、和田山の地を俯瞰して見るとよく分かる。円山川が環を描いて北流し、その環の中に町と山が包まれている。和田山は、円山川の中洲上に発展した町なのである。

「この地区は、わずか18戸から始まったんですよ」とは、案内役の圓龍寺住職、田村信隆さん。

寺には「和田山の源はこの岩清水 清水庵(圓龍寺の旧名) 十八戸より 町造り」という句が残っている。この寺を環の中心とする門前町として、町が形成されたそう。

かつて駅周辺には河原が広がり、水遊びをする子どもの姿が見られたという。コウノトリもよく飛来してきたそう。町内にはその名残を伝える「群鶴亭」という旅館が残っている。

中洲上にあるが故に、水害の多い土地でもあった。8月の地蔵盆に行われる但馬三天祭りのひとつでもある「地蔵祭」は、そうした土地柄を伝える伝統行事。

円山川の洪水によって亡くなった水死者の霊を慰めるために、近隣の人々が圓龍寺に子安地蔵尊を建立したことが、「地蔵祭」の起源とされる。寺は極楽浄土があると思われる西方を向き、祈りの寺として住民の信仰を集めてきた。

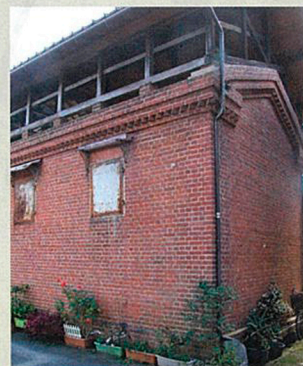
明治初年に寺を中心にして6町内が作られると、それぞれ水難のあった6カ所に地蔵菩薩が開帳され、七所参りとして盛大に行われるようになったそう。

こうして、門前町として栄えた和田山だが、山陰道と播但道の分岐点であったことから、宿場町としても賑わいを見せた。

圓龍寺から斜めに延びる道は、旧街道。今でも漆喰の土壁、虫籠窓、うだつをあげる立派な町家が



和田山駅のホームから見えるかつての機関庫。明治44年、播但線と山陰線の接続駅となったことにより、翌45年、機関庫と給水塔・転車台、引き込み線などが建設された。平成3年頃まで、現役として活躍したが、現在は老朽化のため、中は立入禁止となっている。全国的にも珍しいレンガ造りの機関庫で、半円型の入口部には、白御影石が用いられている。



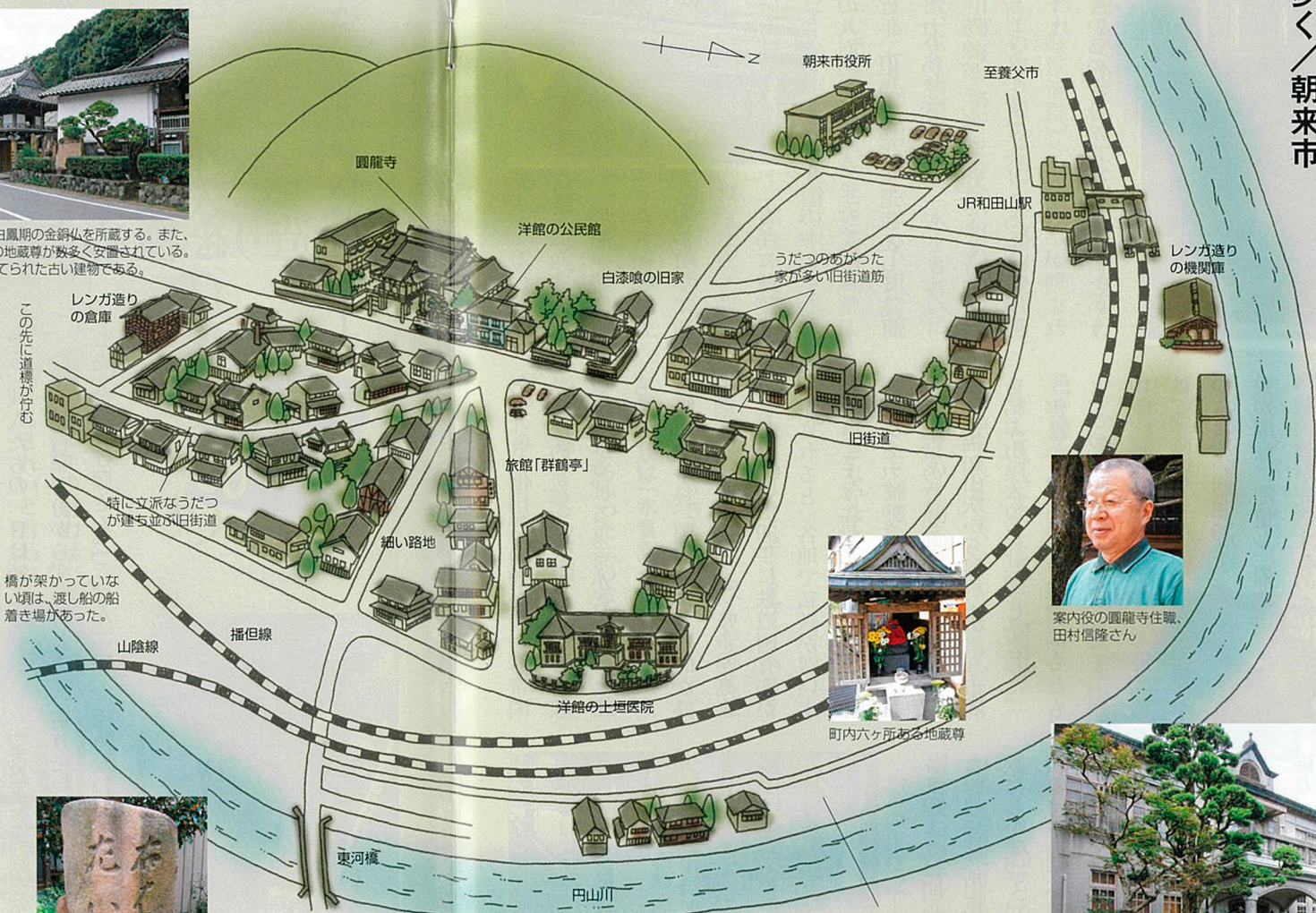
旧街道沿いの路地にあるレンガ造りの倉庫。町屋風の建物が多い中で、異彩を放っている。機関庫のレンガで造られたともいわれているが、定かではない。



案内役の圓龍寺住職、田村信隆さん



古い町並みの中で、ひと際目立つ洋館建ちのモダンな医院。玄関を中心として、左右対称にデザインされている。昭和5年の建設で、一度も改築されていないという。屋根中央には、換気窓が設置されている。



この辺り一帯には河原が広がっていた。

円山川は一旦大水になると、洪水を引き起こす襲来川となった。



旧街道の端にある道標。「右はりま」「左いせ」と刻まれている。交通の分岐点だったことが分かる。「いせ」と記されたのは、江戸時代の伊勢参りの名残であろう。



(右) 和田山の環の中心に位置する圓龍寺。但馬最古の白鳳期の金銅仏を所蔵する。また、水難者を供養するため、家族から寄進された一刀彫りの地蔵尊が数多く安置されている。(左) 圓龍寺の隣りにある擬洋風の公民館。明治期に建てられた古い建物である。



元は造り酒屋だった旧家。黒漆喰の虫籠窓、格子戸、うだつは、貫禄十分。



元は造り酒屋だった旧家。黒漆喰の虫籠窓、格子戸、うだつは、貫禄十分。

### 裏路地探険隊員募集 平成20年1月19日(土)

「府市場周辺を歩く」豊岡市日高町

\*実施日の10日前までに、18ページ掲載のT2編集部へ、住所・氏名・年齢・電話番号・「裏路地参加希望」とお書きの上、ハガキでお申し込みください。開催は午前中、現地集合・現地解散となります。申込締切日後、案内を参加ご希望の方へ送付致します。

\*前号(vol.64)でご紹介した、裏路地探険「城下町、村岡を歩く」で、黒野神社の宮司さんのお名前が間違っておりました。正しくは「田中基彦」さんです。ご本人並びに関係各位にご迷惑をおかけしましたことをお詫びし、訂正致します。

佇み、近代商業施設が建ち並ぶ国道沿いとは一線を画している。特にこれだけうだつが残っている町は、但馬でも珍しい。うだつは、「うだつがあがらない」の語源であり、かつては豊かさの象徴であった。養蚕で生産された繭の集積地として繁栄した町の歴史を色濃く物語っている。

旅館も数多くあったそうで、夜になると、華やかな三味線の音が聞こえてきたという。材木屋、舟屋、紺屋、あめ屋などの屋号も残り、この地が古くから商業地、宿駅として栄えたことが分かる。

「環」が人の「和」となり、発展を遂げてきた和田山。旧街道筋には、町歩きを一層楽しくさせる狭い道が入り組み、これぞ「裏路地」といえる町並みが広がっている。



圓龍寺の斜め前を延びる旧街道は、特に立派なうだつをあげた旧家が多い。探険心を誘う細い路地が至る所に点在し、町を歩くだけで楽しい気分。